

令和6年度東京都立小金井工科高等学校 学校経営報告

東京都立小金井工科高等学校
校長 森田 常次

1 令和6年度学校経営計画の実施結果（概要）

就職や進学など生徒の進路実現に向けた「基礎学力の向上」及び「キャリア教育の充実」に取り組むとともに、本校志望者数の増加に向けた「学校説明会、体験入学、学校HP等の広報活動の充実」を図った。

「基礎学力の向上」については、ICT機器やユニバーサルデザイン（以下、UDと表記）の視点を取り入れた授業・補習・補講・講習の実施などの取組を実施したが、目標の数値を達成することができなかった。しかし、指導と評価の一体化については概ね達成することができた。「キャリア教育の充実」については、4年生の進路（就職4名、進学4名）が概ね決定し、目標が達成できた。休日の学校説明会の実施や学校ホームページのリニューアルなどに取り組んだが、志願者の増加にまでは至らなかった。

次年度も引き続き、基礎的・基本的な学力の定着及び幅広い教養と進級率の向上と進路実現を目指すとともに、キャリア教育の充実を図っていく。

2 取組の評価に基づく分析・考察と次年度に向けて

学校評価アンケートによる取組に対する生徒の評価は以下のとおりである。数値としての成果は現れていないが、組織的な取組が推進されていることから、次年度は今年度の取組をさらに充実させていく。

（1）学習指導の充実

① 基礎的・基本的な学力（活用することができる知識・技能）の定着を図る指導の実践

取組目標	実現状況	結果
「授業内容が分かる」と実感する生徒の割合が80%以上となる授業の割合が75%以上	84.1%	○
「学んだ知識を活用できるようになった」と実感する生徒の割合が80%以上となる授業の割合が75%以上	55.6%	×

- ・短縮時程を最低限に抑えたり、適宜時間割調整したりすることによる授業時数の確保、欠席により取り組めなかった課題（主に実習）の補習の実施、プリントやICT活用の工夫等により、「授業内容が分かる」と実感する生徒が多くなったと推測できる。
- ・「学んだ知識を活用できるようになった」と生徒が実感する授業の割合は、目標値に達しなかった。現行の学習指導要領において「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」が育成すべき資質・能力の柱の一つとして示されていることから、教科・科目の指導においてはより一層意識して取り組む必要がある。

② 自ら学ぶ意欲を醸成する教材や指導方法を研究開発

取組目標	実現状況	結果
「学習したい、調べたい」と思う題材が提供されていると実感する生徒の割合が80%以上となる授業の割合が75%以上	60.3%	×
資格取得に向けた講習会を実施した教員の割合が75%以上	20.0% (4名)	×
新たな国家資格に準ずる資格取得にチャレンジした生徒数20名以上	3名	×

- ・「もっと学びたい」「調べてみたい」と生徒が思う授業の割合も、目標値に達しなかった。一人1台端末の有効活用、授業のユニバーサルデザイン化のみならず、生徒の興味・関心を高めるためのさまざまな工夫が必要である。
- ・資格取得については、講習会の実施及びチャレンジする生徒数の目標値に対し、大きく乖離した結果だった。都では「工科高校資格取得アシスト制度」を令和6年度から始め、校内では当初より生徒への周知に努めてきたが、活用した生徒はいなかった。一方で、第一種電気工事士にチャレンジする生徒もいたことから、生徒一人一人の資格に対する意識の差を踏まえた小金井工科高校における資格取得指導の在り方を考えることが大切である。

③ 授業改善（指導と評価の一体化）の推進

取組目標	実現状況	結果
評価を次の学び（授業）に繋がるように活用した指導が行われていると感じている生徒の割合が75%以上となる授業の割合が75%以上	92.1%	○
教員相互の授業参観による授業研究を1回以上実施した教員の割合が75%以上	25.0%	×
観点別学習状況の評価の在り方や評価と指導の一体化に関する研修会の実施回数3回以上	3回	○

・「指導と評価の一体化」について校内研修を3回実施したこともあり、教職員の95.8%がその推進に取り組んでいると感じている。さらに、多くの授業について「授業担当者が授業中にアドバイスをしてくれている」と生徒が感じており、また、「成績評価が生徒の学習の改善につながっている」と感じている生徒・保護者も多いことから、多くの教員が「指導と評価の一体化」を意識した学習指導していることがうかがえる。令和7年度からは全学年において観点別学習状況の評価を実施していくことになる。児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと、教師の指導改善につながるものにしていくこと、これまで慣行として行われてきたことでも必要性・妥当性が認められないものは見直していくことの3点を学習評価の改善の方向性を踏まえ、校内外の研修や相互の授業参観等も活用した授業改善（指導と評価の一体化）の一層の推進が期待される。

(2) 進路指導の充実

① 適性検査やキャリアパスポートを活用した自己理解を深める指導方法の研究開発

取組目標	実現状況	結果
HR活動において、適性検査やキャリアパスポートが有効に活用され自己理解を深めることができた実感する生徒の割合が75%	74.5%	△

・今年度も適性検査（「M2+（1学年）」「職業レディネステスト（2学年）」「職業理解検査（3学年）」を行い、結果のフィードバックも実施した。キャリアパスポートも、年度初めや学期末といった区切りや行事実施後に記入させ管理している。ほぼ目標値に達しており、概ね自己理解を深める指導ができているものと考えられる。

② 生徒自身が「歩むべき道」を見出すことができる学校設定科目「人間と社会」の指導方法の研究開発

取組目標	実現状況	結果
現代社会の課題について協議して、将来自分自身がやるべきことが何かを深く考えることができた実感する生徒の割合が75%	76.5%	○

③ 生徒一人一人の適性に応じた進路決定に向けた指導の展開

取組目標	実現状況	結果
進路決定に向けた指導や情報提供がされたと感じている生徒の割合75%	86.3%	○
進路決定率100%	88.9%	△
職場体験参加者15人以上（令和6年度は、職場体験に代わり、3年生対象の企業見学会を実施）	14名	△
就職及び進学に関する説明会の回数5回以上	14回	○

・進路決定率は目標値を達成していないものの、就職活動を行っていたり、4月以降就職に向けて個に応じた必要な支援を受けることが決まっていたりするなど、進路決定に向けた動きを継続している。
・求人票管理・閲覧システムの利活用や、進路意識を高めるためのガイダンスの実施、新たな試みとして企業見学会（3学年）や上級学校見学会（2学年）を実施するなど、生徒一人一人の適性に応じた進路決定に向けた指導が充実させることができた。

(3) 生活指導・保健活動・特別活動等の充実

① 自己肯定感を高め、思いやりや責任感、人権尊重の精神を育むホームルーム活動・学校行事を展開

取組目標	実現状況	結果
ホームルーム活動や学校行事で活躍できたと実感する生徒の割合75%以上	66.7%	×
ホームルーム活動や学校行事で主体的に取り組むことができた実感する生徒の割合75%以上	78.4%	○

- ・生徒の自己管理については、目標を達成できなかった。Teams や Studyplus、連絡掲示板等の活用、ホームルーム担任の声かけ等をとおして、予定やその変更の周知を丁寧に行っているところだが、例えば、ホームルームや教科指導においてより具体的、実践的な指導を行っていく必要があると考えられる。
- ・部活動については、生徒、保護者共に約 20%が否定的にとらえているが、バスケットボール部、バドミントン部、柔道部を中心に継続的に活動しており、生徒も熱心に参加している。活動時間や地域移行の課題もあることから、可能な範囲で充実した活動ができるようにすることが大切である。
- ・「ホームルーム活動や学校行事で活躍できた」と実感する生徒の割合が目標値に達しなかった。一方でアンケートから、秋華祭や生徒会活動、生徒会役員選挙、5月に実施した「SusHi Tec Tokyo 2024」におけるボランティア活動等をとおして、生徒は自己有用感を得ていることが伺える。このことから、生徒に活躍の機会を与えていくことが大切であると考えられ、今後のホームルーム活動や学校行事の充実が期待される。

② TPOに応じた対処・行動することのできる人材を育成する生活指導を展開

取組目標	実現状況	結果
時間の管理ができるようになったと実感する生徒の割合 75%	64.7%	×
体調管理（衛生管理、食事等）に関して意識するようになったと実感する生徒の割合 75%	66.7%	×
交通安全に関して意識するようになったと実感する生徒の割合 90%	86.3%	△
交通安全・防災に関する授業・講習会の実施回数 5 回以上	5 回	○

- ・「体調管理（衛生管理、食事等）に関して意識するようになった」と実感する生徒の割合が目標値に達しなかった。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたこともあり、一時のような衛生管理を行わなくなったことが、この結果につながったと考えられる。
- ・令和 6 年度から都の事業により給食無償化されたことにより、受給生徒数が増加した。また、栄養士が給食受給者を対象に食育指導を行った。
- ・自転車通学者に対するヘルメット着用指導や保険加入の確認のほか、令和 6 年度は乗車用ヘルメット着用の重要性を学ぶ「セーフティ教室」を実施した。目標値には達しなかったものの、多くの生徒が交通安全に関して意識するようになっている。

③ 生命及び人権尊重の精神を醸成する生徒指導を展開

取組目標	実現状況	結果
学校が安心できる居場所であると実感する生徒の割合 75%以上	74.5%	△
相談しやすい環境であると実感している生徒の割合 75%以上	74.5%	△

- ・学校生活アンケートやメンタルヘルスアンケート等を実施したり、特別支援コーディネーターとスクールカウンセラーが週 1 回ミーティングを行ったりしており、生徒が安心できる環境づくりや相談しやすい環境づくりができていていると考えられる。

(4) 開かれた学校づくり・健全な学校運営

① 魅力を中学生及び保護者、地域に発信する広報活動

取組目標	実現状況	結果
受検者数 20 名以上	10 名	×
地域への学校評価アンケート依頼数を前年度比 1.5 倍以上	5.8 倍 (13→73)	○

- ・受検生を対象として、平日の学校見学、休日の学校見学会（全 7 回計画）、合同説明会（秋）、体験学習（冬）等を実施してきたが、令和 7 年度入学者選抜（一次募集）の出願数は 10 名だった。本校に限らず都立高校全体でもみられている変化であり、これについては評価が難しい。
- ・令和 6 年度は、前原三丁目のご協力により、多くの地域の方の声を聞くことができた。この貴重な声を教職員全員が受け止めて、教育活動をどのように展開していくかを考える際の参考にしていくことが大切である。

② 服務事故未然防止に関する取組

取組目標	実現状況	結果
服務事故 0 件	1 件	×

- ・今年度発生した重大なサービス事故を受けて、Teams の適正な運用などに係る研修等を実施し、全教職員の理解の徹底を図るとともに、生徒等の個人情報の取扱いのルール等について確認するなど、個人情報の取扱いに対する意識を高める取組を推進してきており、今後も継続的に取り組むことが望まれる。

③ 働き方改革推進に向けた業務の効率化

取組目標	実現状況	結果
サービス事故 0 件	1 件	×
定時外在校時間 80 時間以上の教職員数 0 人	1 人	×
効果的・効率的な予算執行（一般需用費のセンター契約集約率）60%以上	37.1%	×

- ・「OJT 及び業務継承のための校内人事・業務分担」については、令和 5 年度に続き数値からも課題があると考えられ、また、業務量の偏りについて指摘があることから、改善に向けた調整が期待される。
- ・Web 回答方式により集計作業の効率化が実現できているが、無記名回答としていることにより、特に生徒について重複回答等数値に影響が出ている。このため、固有番号を配布するなど、個人が特定できない形で、かつ、重複回答を避ける調査方法を検討することが大切であるとする。